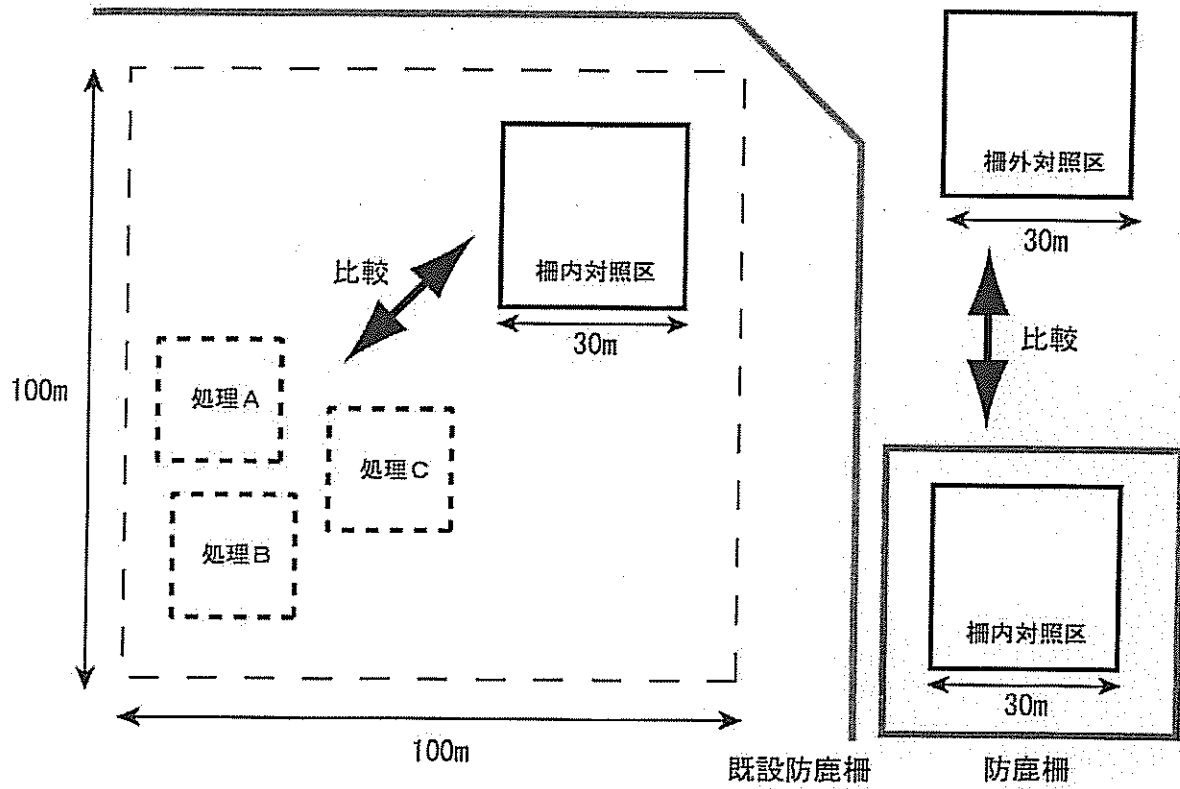


植生タイプ別保全再生手法の検討

植生タイプ I (ミヤコザサ)

既設防鹿柵を利用する方法



※ タイプ I においては、種子の供給がほとんどないと推定される。もっとも緊急に保全再生手法に取り組む場所であるため、既設防鹿柵内での実験を行う。